

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	自分で自分の行為を規制し、自己の行動に責任を持つという遵法の精神を培い(自律)、困難にめげず意欲的に新しいものに取り組み、前向き姿勢で自ら自分の未来を切り拓き(進取)、一致協力して事にあたる(和協)人間を育成する。
(2) 現状と課題	志願者数増加のために、活性化の方向性や方策について検討・協議を進め鱈ヶ沢町との一層の連携や協力を積極的に行っている。小規模校であることを活かし、きめ細かな指導が可能であり、生徒一人ひとりを大切に授業実践による「学力向上」と、生涯学習の観点にもとづいた「自ら学ぶ生徒の育成」を目指し教育活動に日々取り組んでいる。
(3) 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力の育成 2 人間性豊かな心の育成 3 キャリア教育と進路指導の充実 4 保護者・地域の連携及び協働
(4) 結果の公表	評価項目、結果の内容等をまとめた資料を作成し、本校ホームページで資料を公開する。

学校整理番号	15
学校名	青森県立鱈ヶ沢高等学校
全日制の課程	校舎・分校
自己評価実施日	令和7年1月29日(水)
学校関係者評価実施日	令和7年2月14日(金)

(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成
学校運営協議会委員 7名
計7名

自己評価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	学習指導	<ol style="list-style-type: none"> ①基礎学力の定着に向けて、少人数制によるきめ細かな授業を実践するとともにICTを活用した主体的な学びになるように工夫する。 ②わかる喜び、できる達成感を引き出す授業を実践し、家庭学習等を促進する指導を行う。 ③校内外の研修に積極的に参加し、教員の資質向上を図る。情報共有とOJTを推進し、魅力ある学校づくりに努める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①数学と英語で習熟度別授業、情報や商業科目でTTを行ったほか、少人数であることを活かし、一人ひとりに寄り添った授業を行うことかできた。授業等にICTを活用する先生方が増えた。 ②ICTを活用するなど各教科担当者が授業展開を工夫し、生徒の学習意欲の向上を図ることができた。 ③ICT活用教員研修会や特別支援教育に関する研修会を実施したほか、互見授業で指導力の向上を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力、資格取得、学力向上、部活動及び校外の様々な活動に積極的に参加させる指導が行われている。 ・少人数制による、個々の生徒の特性を生かした指導を実践し、わかる授業(きめ細かな指導)に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間でICTを活用した授業展開等のノウハウを共有し、さらなるICT活用を推進したい。 ・観点別評価基準について、さらなる共通理解を図り、評価が学習改善・授業改善につながる取り組みを行う。 ・校外研修等に参加した教職員による研修報告会を定期的に実施し、情報共有を図る。 ・特別支援教育に対する意識や指導力の向上に向け校外研修に積極的に参加する。
2	生徒指導	<ol style="list-style-type: none"> ①自他の尊重と共生社会に必要な能力の育成に努め、当たり前が当たり前ができる人づくりを目指す。 ②いじめの早期発見と組織的な対応を徹底し、教育相談と特別支援体制の充実に努める。 ③学校行事や生徒会活動、野外活動を通じた連帯感や自己有用感の醸成と地域貢献活動を通じた郷土愛の醸成を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①全教職員の共通認識の下、礼法や授業態度、容儀や携帯電話の使用などについて適切な行動を促し、学習に集中できる環境づくりを行うことができた。 ②生徒の面談や教職員間、家庭との連携を図りながら、問題行動・不登校の未然防止、早期発見・早期対応に努めることができた。 ③生徒が特別活動や地域社会と連携・協働することを通して、郷土に対する愛着・誇りと感謝の心を持ち、様々な集団活動に自主的に取り組む態度やコミュニケーション力を育成することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの問題を抱えている生徒が増えている現状の中で、学年と養護教諭を中心に対応しており教員への負担が大きいと感じる。教育相談委員会を中心に学校全体で手厚く指導していく体制づくりを進めていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶ができる生徒は増えてきたが、コミュニケーションを通して遅刻・欠席の防止を促進するまでには至らなかったため、さらに工夫が必要である。 ・多様な生徒・保護者を抱え、学年、養護教諭、SCだけでは対応しきれないケースもあり、教育相談委員会の効果的な運営について検討する必要がある。
3	キャリア教育	<ol style="list-style-type: none"> ①総合的な探究の時間を充実させ、言語活動や体験活動を生かしたキャリア教育の推進を図る。 ②3年間を見通した、計画的な進路指導を実践し、面接や小論文指導を充実させ、個に応じたきめ細かな進路指導や進路支援の体制づくりを実践する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①2年生は、1年次に考察した課題解決策が実現可能かをインターンシップで検証し、継続した探究活動を行うことができた。1年生は昨年度の取組を改善し、グループ活動から一人1課題での考察・発表に加え、事業所の方々を迎えての発表会を1・2年生合同で実施し充実した学習内容を展開することができた。 ②全教員の協力のもとに進路指導を行い、3年生に関しては、充実した個別指導により学力や文章表現力が向上し、全員希望進路を達成することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間は、1年次の課題解決策を2年次のインターンシップで検証するという学びのスタイルがよかった。また、そのまとめのための発表会など、一連の学習プロセスがよく吟味されており、主体的な学びのよいモデルだと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間を含め、さまざまな活動を通して、生きる力の育成を継続していく。今後も引き続き、町との連携・協力を推進する。
4	開かれた学校づくり	<ol style="list-style-type: none"> ①HPや各通信による学校情報の積極的な発信やメディアとの連携による情報発信を行い学校の見え方を図る。 ②町、地域団体、企業との連携事業の推進やボランティア活動等を通じた教育活動を充実させ、保護者、地域が一体となった教育の推進を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校Webページが迅速に更新されるとともに、学校案内を見やすく分かりやすい内容とし、充実した情報発信ができた。また、多くのメディアに生徒の活動様子が取り上げられ学校の魅力を発信することができた。 ②町内のゴミ拾いなど多くのボランティア活動を通じて地域貢献の精神を養うことができた。地域との関わりの中で、生徒が自己存在感、共感的な人間関係、自己決断の場を築ける指導を行い、生徒の主体性を育むことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から実施した、小・中学生を対象にした体験学習を町民文化祭とコラボしたり、海の駅付近で行われる町のイベントに「鱈高体験コーナー」をつくと、小・中学生だけではなく町内外の方々へのアピールとなるのではないかと考える。生徒も一般客を相手に活動する事で良い経験になると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元や近隣地域及びその中学生に対する広報や情報発信に一層力を入れ、鱈ヶ沢高校の魅力を伝え志願者数の増加に今後も取り組んでいく。 ・ボランティア活動等に、取り組むことの大切さや意義について理解させ、自主的に参加する姿勢を養う指導が必要である。
(11) 総括	<p>少人数の利点を活かしたきめ細かな指導を全教職員で行っている。3年生については、全員の進路が決定し、その指導過程においても全教員による丁寧な指導を実践している。学校行事や生徒会行事は、町との連携協定に基づき、町から多くの協力をいただいている。本校独自の特色ある部活動へ参加率が高まり、生徒が活躍する場面が飛躍的に増えた。今後も、志願者数を増やすべく、本校の魅力を外部へ発信していき地元や近隣、全国の中学生に選ばれる学校づくりを進めていく。</p>					